

市政

5

May 2018
vol.67

特 集

豪雨災害から市民を守る

市政ルポ

朝霞市／五輪会場にも決定の《むさしのフロント》
「私が暮らしつづけたいまち」へ



全国市長会

ISSN 0488-6801
通巻七九〇号 平成二十年五月一日(毎月一回)発行 昭和二十七年十一月八日 第三種郵便物認証印

『道』を生かした 健康づくり・地域振興



三木 正夫

須坂市長(長野県)



横戸 長兵衛

上山市長(山形県)



河井 規子

木津川市長(京都府)



内藤 久夫

韮崎市長(山梨県)

司会・コーディネーター

ほそのすけひろ

細野 助博

中央大学総合政策学部教授

座談会では、道を住民の健康づくりや地域の活性化など、まちづくりに積極的に生かす試みをしている横戸・上山市長、三木・須坂市長、内藤・韮崎市長、河井・木津川市長にご出席いただき、それぞれの取り組み内容や成果、来訪者へのおもてなしに向けた工夫、今後の展望などについて、幅広くお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

地域の自然や歴史、文化と深く結びついている「道」。ウォーキングなど、住民の健康づくりにつながるだけでなく、貴重な観光資源としても注目されます。各都市においても、豊かな景観を備えた「道」をウォーキングコースに選定し、ウォーキングイベントを開催したり、観光振興の核として活用するなどしています。

「道」は魅力あるまちづくりの起爆剤



まちづくりはないもの
ねだりをしても成果は
出ません。地域資源を
ブラッシュアップして
活用することが
求められます。

横戸 長兵衛
上山市長(山形県)

三木 須坂市は、地域の女性の皆さんのが健康に
関する知識や技術を学び、それを家庭や地域に
広げる「保健補導員」発祥の地です。深刻な食料
不足に見舞われていた第二次世界大戦末期に、
さらに、平成27年度からは特定保健指導該当
者や糖尿病予備群の人などを対象にした「宿泊
型新保健指導事業」も本格的に始まりました。

横戸 上山市は、城下町、温泉町、宿場町の3
ながら、地域を挙げて「上山型温泉クアオルト
事業」を推進しています。クアオルトとは「健康
保養地・療養地」を意味するドイツ語で、発祥
の地のドイツでは、温泉や海、泥、気候などを
活用しながら疾病を治療・緩和・予防する自然
療法が活発に行われています。上山市でも、市民の健康寿命の延伸と観光誘客による地域経済
活性化を目的に、平成20年から事業をスタート
させました。

取り組みの中心は、「気候性地形療法」という
ドイツの療養手法に基づいた「クアオルト健康
ウォーキング」です。市内には5カ所8コースが
日本で唯一ドイツのミュンヒエン大学の認定を
受けているほか、地域の公民館などを拠点に、
まちなかを気軽に歩けるコースも多数設けてい
ます。そうした環境を生かして、年間360日、
日替わりで各コースを専任ガイドが案内する
「毎日ウォーキング」、旅館主人の案内で宿泊客
と市民が参加する「早朝ウォーキング」などが行
われ、年間1万3000人を超える方々が
ウォーキングに励んでいます。



市内の里山を活用したクアオルト健康ウォーキング(上山市)

この顔を併せ持つ、全国的に珍しいまちです。
また、伝統ある歴史・文化的資源、果樹をはじめ
とする旬の食、四季折々に姿を変える自然環境など、地域資源も豊富です。

上山市では、こうした恵まれた資源を生かし
ながら、地域を挙げて「上山型温泉クアオルト
事業」を推進しています。クアオルトとは「健康
保養地・療養地」を意味するドイツ語で、発祥
の地のドイツでは、温泉や海、泥、気候などを
活用しながら疾病を治療・緩和・予防する自然
療法が活発に行われています。上山市でも、市
民の健康寿命の延伸と観光誘客による地域経済
活性化を目的に、平成20年から事業をスタート
させました。

農家のご婦人方を中心に活動がスタートし、昭
和33年に市の制度に位置付けられました。以来、
禁煙や減塩運動、健康体操やウォーキングの普
及など、幅広く活動を展開してきました。
やがて長野県のほぼ全市町村に組織され、健
康に関するボランティア活動が各地で活発に行
われるようになりました。今や長野県を全国有
数の健康長寿県に押し上げた要因の1つとし
て、内外から高い評価を受けています。

須坂市ではこうした健康長寿の地域づくりの
先進都市として、これまで推進してきた取り組
みをさらに進め、さまざまな地域資源を活用し
た新たなネットワークを活用しながら、市が發
展していくプロセスを全国、そして世界へ発信
しようと、平成27年度から「健康長寿発信都市

観光客が住民と交流しながら、須坂ならではの風情や歴史、生活に触れていただく「暮らし観光」を推進しています。

三木 正夫
須坂市長(長野県)



『須坂JAPAN』創生プロジェクト』を進めています。

その一環として力を入れているのが、ウォーキングの推進です。須坂の市街地は製糸業の発展によって急速に都市化が進み、道路計画が追いつかないままに市街地が拡大したことから「巨大迷路の町」と言われており、「小路」もたくさんあります。市街地の小路に迷い込んでみる

とタイムスリップをしたような楽しみもあります。須坂市では自然や名所旧跡を組み込んだ、27ものウォーキングコースを設定しているほか、観光協会と連携しながら、ウォーキングイベントを多数開催しています。市民の健康増進はもちろんのこと、交流人口の拡大などにも効果が出ています。

内藤 荏崎市出身の大村智博士は、平成27年にノーベル医学・生理学賞を受賞された際に「こんなに美しい場所は世界中を探してもそうはない」「眺望は人を養う」と、自らが生まれ育った荏崎市についての思いを述べられました。荏崎市では大村博士が称賛する素晴らしい眺望と、歴史と文化に彩られた魅力を併せて体感できる各種ウォーキングイベントなどの開催を通して、心身ともに健康である「健康寿命日本一」を目指しています。

そうしたウォーキングイベントの代表例が、毎年4月に行う「武田の里ウォーク」です。従来は真夜中から翌日にかけて諏訪市から荏崎市までの52kmを歩くイベントでしたが、平成28年からは34km、24km、12km、8kmと参加者のレベルに応じたコースを設定。富士山などの雄大な山々の景観をはじめ、荏崎の自然・風景・文化を感じられるウォーキング大会へと生まれ変わりました。イベント中には、教育委員会の文化財担当職員がガイド役として、武田勝頼が築城した新府城の史跡の説明を行うなど、積極的にまちの歴史や文化も発信しています。さらに、秋になると、ブドウの産地として知られる穂坂地区を舞台にしたウォーキングイベント「武田の里ウォーク 穂坂ぶどう郷コース」も開催しています。

『須坂JAPAN』創生プロジェクト』を進めています。

その一環として力を入れているのが、ウォーキングの推進です。須坂の市街地は製糸業の発展によって急速に都市化が進み、道路計画が追いつかないままに市街地が拡大したことから「巨大迷路の町」と言われており、「小路」もたくさんあります。市街地の小路に迷い込んでみる



蔵を生かした商店、博物館などが建ち並ぶ「蔵の町並み」(須坂市)

河井 木津川市は奈良市と隣接した、京都府最南端のまちです。古くから奈良の都との関係が深く、さまざまな資材の輸送、瓦の生産などを通して、都の発展を支えたほか、聖武天皇治世の740年から約5年にわたり市内に恭仁京という都が置かれたこともあります。こうした古い歴史を背景に、木津川市は京都府内では京都に次いで、国宝、重要文化財が多いまちとし

ても知られています。

木津川市内にはこうした歴史的資源と触れ合う散歩道も多数あります。「新日本歩く道紀行100選」にも、明治期にわずか9年間だけ営業した鉄道路線「大仏鉄道」の遺構を巡る「大仏道遺構めぐりコース」、南都仏教の影響を色濃く受け、寺院や修行場、磨崖仏などが多数点在する「当野石仏の道コース」、そして、木津川市、城陽市、井手町にまたがって南山城の山際をうねるように続く「山背古道コース」の3つが選定されており、地域の散策を兼ねて多くの人がウォーキングを楽しんでいます。

併せて、平成23年から、「道」を生かしながら、地域に根付く文化や景観、伝統などを、現代アートと融合させ、市の魅力を全国に発信する



南アルプスを背景にした眺望が人気(韮崎市)

地域資源の積極活用で、付加価値の高い取り組みへ

細野 地域の「道」を生かしたウォーキングの普

及、アートイベントの開催など、健康増進や地域振興に向けたさまざまな取り組みについてお話しできました。各都市とも、独自の地域資源を組み合わせて、付加価値の高い取り組みにしようと工夫されているところに共通点がありますね。

横戸 クアオルト事業を効果的に進めるためには、ウォーキング環境の整備だけでなく、「食」や「温泉」の要素も重要になってしまいます。そこで、上山市では、旬の地元食材を生かし、栄養バランスに配慮した食事の開発にも取り組みました。その成果が約600キロカロリーに抑えた「クアオルト膳」「クアオルト弁当」で、市内の旅館や店舗で提供されます。さらに、温泉町というメリットを生かして、平成33年度完成をめどに、温泉プールを備えた「温泉健康施設」の整備も進めています。まちづくりはないものねだりをしても成果は出ません。地域資源をプラットフォームしながら、効果的に活用することが求められます。

三木 地元旅館の魅力向上にもつなげようと、ヘルシー料理の開発や提供に努力しています。

また、須坂市にもさまざまな資源がありますが、中でも観光客にアピールしたいのがフルーツとスイーツです。リンゴやブドウの主要な産地として、フルーツ狩りとフルーツスイーツICT、ウォーキングを連動させたイベントなどにも取り組んでいます。

内藤 韮崎市では地域振興としての「道」の活用に向けて、市内を一つの美術館に見立てた「まちなか美術館構想」を進めています。その一環として、大村智博士が少年時代に歩いた通学路を「幸福の小径」と命名し、ルートの中心地である

内藤 久夫
韮崎市長(山梨県)



地域振興としての「道」の活用に向けて、市内を1つの美術館に見立てた「まちなか美術館構想」を進めています。

らの刺激も生かしながら、まちを盛り立ててい
きたいと思います。

三木 須坂市観光協会では、観光客が住民と自
然に「道」で言葉を交わし、交流しながら、須坂
ならではの風情や歴史、生活に触れていただく

「暮らし観光」を推進しています。その一環とし
て、休憩と観光案内を兼ねた「蔵のまち観光交
流センター」「まゆぐら」「ぶらり館」でお茶
と漬物を無料で提供するおもてなしを行ってい
ますが、観光客からとても好評です。こうした
取り組みを通して、まちのイメージ向上やり
ピーターの創出につなげたいと思います。

広域的な地域連携を推進する

細野 観光施策などで効果を上げるために、
広域的な連携も必要だと思います。地域同士の
連携、交流も含め、最後に今後の展望について
お聞かせいただきたいと思います。

河井 木津川市は今年の1月、歴史的なつなが
りが深い奈良市と、府県を超えて「連携・協力
に関する包括協定」を締結しました。これまで
奈良市には宿泊施設が少なく、日帰り観光が中
心でしたが、近年はホテルの整備も進んでいま
ています。

横戸 上山市を含む6市3町は「日本クアオル
ト協議会」の加盟自治体として、共に質の高い
滞在型の健康保養地づくりに向けて努力してい
ます。これまで上山市では行政主導で事業を進
めてきましたが、民間の力を十分に取り入れな
がら施策を推進している加盟都市もあります。
今後は、上山市でも、そうした取り組みを参考
にしながら、地域の中で産学官金の連携を深め、
ビジネスにつながる仕組みの構築に力を尽くし
ていきたいと考えています。

す。滞在型観光が定着すると、府県を超えて周
辺地域にもチャンスが広がりますので、奈良市
との協力関係を深めていきながら、木津川市を
含めた新たな観光ルートのPRにも取り組みた
いと思います。

三木 地域と地域を結ぶのは「道」です。江戸時
代には、街道を通じて地域同士がつながっていましたが、近代に入り、自治体ができたことで、
そのつながりが希薄になってしまったように思
います。「道」を通じた広域連携の重要性を、も
う一度考え直す時期にきてているのではないかで
しょうか。さらに、遠隔地であっても、考え方
理念を同じくする自治体とは積極的につながっ
ていきたいですね。

(平成30年4月11日、全国都市会館にて開催)
本コ一ナ一は隔月掲載となります。次回は7月号に掲載予定です。



細野 助博
中央大学総合政策学部教授

細野 戦後はモータリゼーションの進展で、交
通や流通事情も一段と発達し、私たちの暮らし
も便利になりました。しかし、その一方で、道
と車の組合せはまちや人々の暮らしに悪影響を
及ぼした側面もあつたかと思います。その点、
本日は、「歩く道」を基本に据えながら、それが
まちの活性化や、人々の健康増進、さらにはシ
ビックプライドの醸成に効果的につながること
を、各都市の事例を基にご紹介いただきました。
まちづくりのあり方を見つめ直す機会にもなつ
たのではないかと思います。これからも地域の
「道」を積極的に活用し、よりよい地域づくりに
向けてご努力いただきたいと思います。本日は
ありがとうございました。



通や流通事情も一段と発達し、私たちの暮らし
も便利になりました。しかし、その一方で、道
と車の組合せはまちや人々の暮らしに悪影響を
及ぼした側面もあつたかと思います。その点、
本日は、「歩く道」を基本に据えながら、それが
まちの活性化や、人々の健康増進、さらにはシ
ビックプライドの醸成に効果的につながること
を、各都市の事例を基に紹介いただきました。
まちづくりのあり方を見つめ直す機会にもなつ
たのではないかと思います。これからも地域の
「道」を積極的に活用し、よりよい地域づくりに
向けてご努力いただきたいと思います。本日は
ありがとうございました。